

都市再生整備計画(第3回変更)

ふくおかちゅうおうちく だい き
福岡中央地区(第3期)

とやまけん たかおかし
富山県 高岡市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	富山県	市町村名	たかおかし 高岡市	地区名	ふくおかちゆうおうちく(だいさんき) 福岡中央地区(第3期)	面積	39 ha
計画期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	平成 31 年度 ~ 令和 5 年度				

目標

大目標: 福岡中央地区が有する生活基盤や歴史・文化資産を活かした『地域拠点の形成』

- 目標1: 安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり
- 目標2: 歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
本市では、高度経済成長期に生産年齢人口の拡大に対応した自動車中心のまちづくりを進めてきた結果、市街地が低密度に拡大するとともに、中心市街地や周辺市街地の中心性が低下することとなった。一方で、公共交通の利用環境の良さ、中心市街地や周辺市街地に残る歴史・文化資源といった強みは今なお残されている。このような状況を踏まえ、「長い年月をかけて歴史・文化を築き上げてきた各市街地に、多くの人が集い、楽しめる空間を創出する」といった考えのもと、以下の方針に基づき都市全体の再編を図る。

- ・高岡の強みである固有の歴史・文化を築き上げてきた各市街地に、それぞれ必要な都市機能や居住を維持・誘導する。
- ・都心エリアと周辺市街地を公共交通で結び、商業、医療、福祉など様々な生活サービスの利用を可能とすることで、高齢者、子供や障がい者など自動車を自由に利用できない方も徒歩や公共交通を利活用しながら暮らし続けられるまちづくりに取り組む。
- ・各市街地においては、市民や事業者とともにまちの魅力づくりに取り組むことで市民がまちを歩き楽しめる空間を創出する。
- ・これにより、新たな民間活力や観光客を呼び込み、歴史・文化を後世に引き継ぎながら、創造的で活力あふれるまちづくりを実現する。

また、都市機能の誘導にあたっては、公有財産の有効活用の観点からも、今後、再編する施設や跡地の活用や、再編の方針を早急に決定するとしている文化系施設(公民館、市民会館)、社会教育系施設(美術館・博物館)学校教育系施設(学校)や行政系施設(本庁舎、福岡庁舎)などの方針決定と連携を図る。

まちづくりの経緯及び現況

平成17年11月に旧高岡市と合併した(旧)福岡町は、富山県の北西端部に位置し、町域の約7割を北西に広がる山間部が占めている。平野部の中央西寄りには一級河川小矢部川が北東に流下するほか、中心部には桜の名所として知られる岸渡川が流れている。
本地区は、あいの風とやま鉄道福岡駅を核とし、旧北陸街道(県道岡笹川線)、国道8号、(都)駅前線を軸とした中心市街地(既成)が形成されている。旧北陸街道沿線では、菅笠の集散地として栄えた歴史的風情が今なお残されており、また、ミュゼふくおかカメラ館・いづく処(まちづくり福岡工房)・雅楽の館等の文化交流施設の集積も見られる。
本地区では、人口・世帯数の減少、高齢化の進展、空き店舗・空き地の増加等を背景に、中心市街地としての求心性が低下していたため、平成19年度より福岡駅前土地区画整理事業、平成21年度より歩行者回遊の創出を主な目的として都市再生整備計画の第1期事業、平成26年度より第2期事業を進めてきた。その結果、都市基盤の充実による人口減少率の低下、文化交流施設の機能強化による利用者増など一定の成果が見られた一方、歩行者回遊が十分に創出されていないなど、残された課題もある。
また、その間、歴史や伝統、文化、風土などの優れた地域特性を活かした景観・歴史まちづくり、また、持続可能な都市経営を可能にするコンパクトアンドネットワークのまちづくりといった新たな政策課題にも直面している。

課題

- 誰もが安全、安心、快適に暮らすことができる都市基盤を整える必要がある。
- 既存の生活サービス施設を使いやすく、また、新たな施設立地を誘導するための都市基盤を整える必要がある。
- 歴史・文化資産を地域の誇り、来訪者を惹きつける魅力とするため、保全や活用に取り組む必要がある。
- まちに求心性や活力を生み出すため、地域住民や来訪者等による多様な交流を促す必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- 高岡市総合計画基本構想(計画期間 H29～H38年度)
- ・まちの将来像 豊かな自然と歴史・文化につつまれ、人と人がつながる 市民創造都市 高岡
- ・めざすまちの姿 【歴史・文化】世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている 【交流・観光】生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている
- ・都市構造の考え方 コンパクト・アンド・ネットワーク
- 高岡市都市計画マスタープラン(H30.12策定)
- ・福岡駅周辺を、身近な生活サービス機能の集積を図る「地域生活拠点」に位置づけ
- 高岡市立地適正化計画(H30.12策定)
- ・ターゲット 長い年月をかけて歴史・文化を築き上げてきた市街地に、多くの人が集い、楽しめる空間を創出する
- ・ストーリー 集める(都市機能と居住人口)、繋ぐ(拠点内、拠点間)、増やす(民間投資)
- ・福岡駅周辺において居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定
- 高岡市景観計画(H21.3策定、H29.2変更、R3.3変更)
- ・旧北陸街道沿道を景観形成重点地区に設定
- ・目標: 北陸街道の歴史的な趣が感じられ、歩いて楽しく、暮らしやすい町並みの景観形成を図る
- 高岡市歴史まちづくり計画(H23.3策定、H29.3変更、R2.3変更、(第2期)R3.3策定)
- ・方針 歴史的風致に息づく歴史と伝統を反映した工芸技術及び地域固有の祭礼・年中行事の継承と育成、歴史的風致の核となる歴史的建造物の積極的な保存と活用、歴史的風致を形成する歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和
- ・旧北陸街道沿道一帯を重点区域に設定

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・関連事業である福岡駅前土地区画整理事業による基盤整備を進めており商業、医療などの都市機能が集積し、交通便利性も高い福岡駅前を中心に居住や都市機能を維持・誘導することで、旧北陸道の宿場町や菅笠問屋の町から発展してきた市街地の維持・再生を図り、市街地内の土地を有効活用する。
- ・福岡駅前の生活商業地区では、商業・業務施設、各種公共施設及び住宅が集積する中密度な土地利用を維持・誘導する。
- ・あいの風とやま鉄道や路線バスの利用しやすい環境づくりのため、駅前広場、駐車場、駐輪場等の整備により、乗換の利便性向上を図る。
- ・「歴史まちづくり計画」の重点区域に位置付けられ、「景観計画」による景観形成重点地区にも指定している旧北陸道沿いでは、沿道の建造物の修景等への支援や快適な歩行空間の創出等により町並みの保全・形成を進め、歴史的風致の維持・向上を図る。

目標を定量化する指標

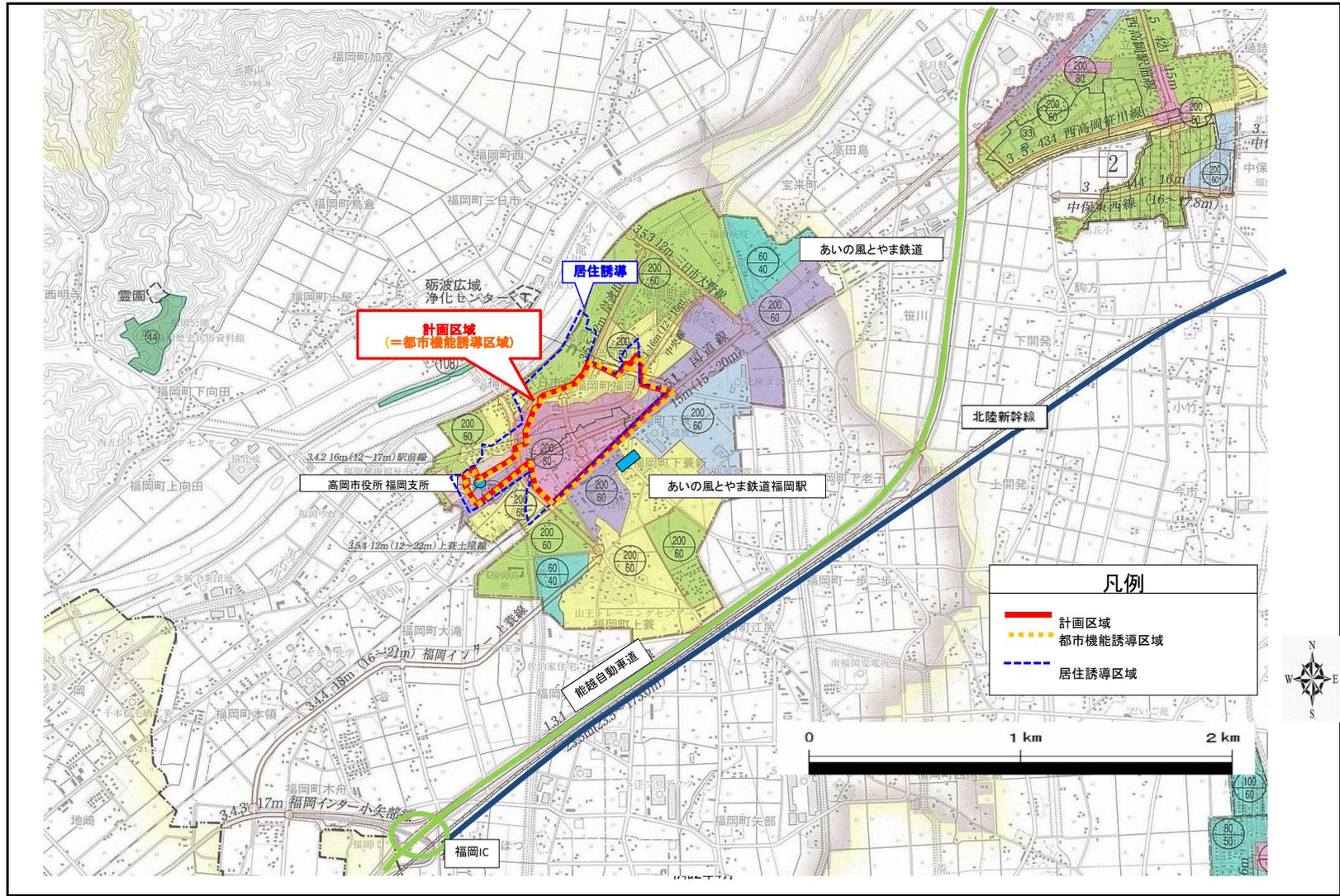
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内の人口密度	人/ha	計画区域内の人口密度	生活拠点づくりに関する事業を実施することにより、人口密度の維持を目指す(高岡市立地適正化計画(H30策定)の数値目標に準じる)。	30	平成27年度	30	令和5年度
住民満足度	%	住民アンケート調査における住民満足度	生活拠点づくり、交流拠点づくりに関する事業を実施することにより、駅周辺エリアの公共交通・公共施設・店舗の利便性が良いか、活気やにぎわいが感じられるかという問いに対して「良いと思う・感じられる、何となく良いと思う・感じられる」と答えた人の10%増を目指す。	48	平成30年度	58	令和5年度
文化交流施設の入館者数	人/年	計画区域内に立地する文化交流施設の入館者数 ・ミュゼふくおかカメラ館 ・雅楽の館 ・いっぷく処(福岡まちづくり工房) ・フケール(福岡にぎわい交流館・福岡中央公民館分館) ・Uホール(福岡中央公民館本館)	歴史・文化資産を活かした交流の場、機会を創出することにより、計画区域内の文化交流施設の入館者数の増加を目指す。 (目標値設定の考え方を記載)	125,365	平成29年度	140,000	令和5年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】 安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり □歩いて暮らせるまちづくりの推進 ・地域に住む誰もが歩いて暮らせる生活環境を整えるため、中心市街地に立地する様々な施設をネットワークする安全で快適な道路空間を整備する。 ・歩行者の回遊性を高めるため、菟川の自然景観を活かしたプロムナード(散策路)の整備などを行う。 ・また、市道の整備により、生活利便性を高める生活サービス施設などの立地を促進する。</p> <p>□潤いのあるまちづくりの推進 ・中心市街地内にある潤い、憩いの空間として、菟川1号公園や緑地、ポケットパーク等の整備を行う。</p> <p>□地域の生活拠点としての利便性を高める交通結節機能の強化 ・生活拠点として、区域外、国内外からも訪れやすい環境を整えるため、公共交通(鉄道、バス)、自転車の利用環境を強化する。 ・公共交通(鉄道、バス)の利便性を高めることで、公共交通を軸とした地域で暮らす誰もが暮らしやすい環境を整える。</p>	<p>・道路整備事業【基幹/道路】 ・菟川プロムナード整備事業【基幹/高質空間形成施設】 ・菟川2号公園付帯施設整備事業【提案/地域創造支援事業】 ・福岡駅前地区周辺整備事業【基幹/高質空間形成施設】 ・福岡駅前土地区画整理事業【関連事業】</p> <p>・菟川1・2号公園等整備事業【基幹/公園】 ・緑地等整備事業【基幹/地域生活基盤施設】</p> <p>・福岡駅前自転車駐車場整備事業【基幹/地域生活基盤施設】 ・福岡駅前地区周辺整備事業【基幹/高質空間形成施設】※再掲</p>
<p>【整備方針2】 歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり □歴史・文化資産の価値の向上 ・菅笠の集散地として栄えた歴史的風情が残る旧北陸街道において、道路空間の高質化を行い、歴史的な街並み景観の価値を高める。</p> <p>□歴史・文化資産と一体となった交流の場の形成 ・本地区の玄関口である福岡駅周辺において、交流の場として菟川1号公園、地域交流センター多目的広場の整備を行い、旧北陸街道と一体となった交流拠点を形成する。</p> <p>□歴史・文化資産のPR等を兼ねた交流機会の創出 ・旧北陸街道や菟川1号公園、地域交流センター多目的広場などの交流の場の利用促進、また、利用を通じたPRのため、旧北陸街道沿道を中心にイベント等を実施し、地区内外の交流を促し、多文化・多世代による多様なにぎわいを創出する。 ・歩行者の回遊を促すため、また、歴史・文化資産のPRのため、まちなかサインの設置を行う。</p>	<p>・旧北陸街道((都)中央線)整備事業【基幹/高質空間形成施設】 ・旧北陸街道((都)中央線)電柱修景整備事業【提案/地域創造支援事業】</p> <p>・菟川1・2号公園等整備事業【基幹/公園】※再掲 ・地域交流センター整備事業【基幹/高次都市施設】</p> <p>・まちなかサイン設置事業【基幹/地域生活基盤施設】 ・福岡歴史街道散策体験教室事業【提案/まちづくり活動推進事業】 ・福岡歴史街道 管に触れる製作体験教室事業【提案/まちづくり活動推進事業】 ・まちの宝探しウォークラリー事業【提案/まちづくり活動推進事業】</p>
<p>その他</p>	
<p>【事業終了後の継続的なまちづくり活動】 ・既存のまちづくり主体や新たなまちづくり主体の継続的な活動を促し、住民による維持管理や地域独自のまちづくりを展開する。</p> <p>【交付期間中の計画の管理について】 ・事業の進捗状況を把握し、計画の見直し・精査を行いながら、効果的な施策の実現を図る。 ・計画内容は市のホームページや広報誌への掲載等により情報提供する。</p>	

都市再生整備計画の区域

福岡中央地区(第3期)(富山県高岡市)	面積	39 ha	区域	荒屋敷、下叢、下叢新、大滝、福岡、福岡新
---------------------	----	-------	----	----------------------



福岡中央地区(富山県高岡市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 福岡中央地区が有する生活基盤や歴史・文化資産を活かした『地域拠点の形成』 目標1: 安全性、快適性、利便性の高い生活拠点づくり 目標2: 歴史・文化資産を活かした交流拠点づくり	代表的な指標	地区内の人口密度	人/ha	30	(H27年度)	→	30	(R5年度)
			住民満足度	%	48	(H30年度)	→	58	(R5年度)
			文化交流施設の入館者数	人/年	125,365	(H29年度)	→	140,000	(R5年度)

